

授業科目名	美学	担当教員 熊倉 敬聰	
必修の区分	選択		
単位数	2 単位		
授業の方法	講義		
開講年次	1 年 第3クオーター		
講義内容	「美学=感性学(エステティック)」を単なる知識の学習のみならず、五感を用いる「美」の経験とその知的理解として会得できるようになることを目的とする。芸術のジャンル的にも、絵画、音楽から、映像、舞台芸術に至るまで、それぞれのジャンルにおける美的経験の共通点と相違点を探っていく。さらに、文化圏(特に西洋と東洋)によって美の感じ方・作り方が異なることを理解していく。最終的には、人間にとて美の経験と理解には普遍性があるか否かを問うていく。		
到達目標	学生は「美」という事象を、単に漠然とした印象あるいは紋切り型のイメージから離れ、自らの感性、そして五感を通した経験かつ知的理解として学ぶことができる。また、学生は、芸術のジャンルや文化圏によって、「美」の在り方が異なることを、実際に作品などを比較することによって理解することができる。さらに、学生は、小発表やディスカッションを通して、自らの「美」についての理解を表現し、また他の学生たちの理解によって相対化されることによって、より客観視できるようになる。		
授業計画	1. 「美学=感性学(エステティック)」とは何か 2. 感性と美(1)：視覚を中心に 3. 感性と美(2)：聴覚を中心に 4. 感性と美(3)：味覚を中心に 5. 感性と美(4)：触覚を中心に 6. 感性と美(5)：臭覚を中心に 7. 五感を感じる 8. 自分を感じる 9. 他者を感じる 10. 西洋の美と東洋の美(1) 11. 西洋の美と東洋の美(2) 12. 改めて「美」とは何か		
事前・事後 学習	・事前に授業で取り上げるテーマに関して自分なりに考えてくること。 ・各授業の冒頭、学生たちに前回の内容を振り返る作業を行ってもらう。 ・各授業の最後、その回の授業内容を振り返り、ミニレポートを書いてもらう。		
テキスト	資料に関しては、必要に応じて配付する。		
参考文献	適宜紹介する。		
成績評価 の 基 準	出席および授業内課題(50%)、最終レポート(50%)で評価する。		
履修上の注意 履修要件			
実践的教育	該当しない。		
備考欄	定員50名を超える場合は抽選とする。		